

病弱教育部門における マルチメディアDAISY図書の実践

東京都立墨東特別支援学校 いるか分教室
河野聡美

はじめに

都立墨東特別支援学校いるか分教室は、国立がん研究センター中央病院の小児病棟内にある分教室です。国立がん研究センター中央病院に入院している小学校1年生から高校3年生までが学習をしています。小児科病棟と同じフロア内に教室があり、子どもたちは病室から登校してきます。授業は月曜日から金曜日までの週に5日、1時間目から5・6時間目(学年によって異なる)まであります。行事も通常の学校と同様に社会見学や学習発表会などがあります。子どもたちは治療を優先しながら、体調に合わせているか分教室に登校し学習に取り組んでいます。

いるか分教室の環境

従来から、都立墨東特別支援学校本校の肢体不自由教育部門では、「わいわい文庫」を活用した取り組みを行っていましたが、病弱教育部門には導入されていませんでした。2018年度から病弱教育部門のいるか分教室でも「わいわい文庫」の導入が少しずつ始まり

ました。

本校と異なり、限られたスペースで学習活動を行っているため、いるか分教室には図書館、パソコン室はありません。教室の一角に本棚はありますが、十分な蔵書数とは言えない状況です。今年度は「わいわい文庫」の導入に合わせ、マルチメディアDAISYをダウンロードしたiPad 1台を準備しました。また、もともとあったノートパソコンを使用し、ディスクを入れて「わいわい文庫」を読めるようにしました。

活用実態と活用が可能な場面

今年度はまだ導入したばかりということで十分な実践例とは言えないかもしれませんが、活用が可能な場面も含め様子を紹介します。

(1)活用実践

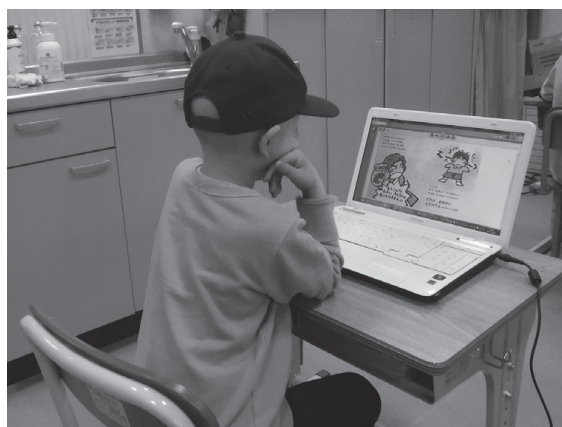
〈国語の学習での活用〉

小学部1年生の国語の単元「としょかんへいこう」では、学校図書館へ行き、本を読んだり、借りたりする学習活動に取り組めます。いるか分教室に

は図書館がないため、これまでは教室
内にある本棚を活用して授業を行って
きました。しかし、本棚に蔵書されて
いる書籍の種類は少なく、本を探して
読むという活動がむずかしいという問
題がありました。

そこで、「わいわい文庫」を活用し
学習活動を行いました。本のタイトル
も分教室の本棚よりもたくさんあり、
また、いろいろなジャンルの本がある
ため、複数の書籍の中から自分が読ん
でみたいと思う本を選ぶという経験を
することができました。

また、どのような本を選んだらいいか
わからない時には、教職員が学校司書
のような役割をして、子どもに本の紹介
をしたり、本を探す相談に乗ったりしま
した。疑似的なものですが、図書館の
基本的な利用方法の一部を体験するこ
とができました。子どもも本を選びなが
ら、「つぎはこれをよみたい。」「サッカー
のほんはあるかな？」などの発言があり
興味をもって取り組んでいました。



パソコンで読書をする様子

〈音読の学習での活用〉

いるか分教室には、読んだり書いたり
ということに困難を抱えている子
どもも在籍しています。読んでいると
ころがわからなくなってしまうたり、
読み飛ばしをしてしまったり、推測読
みをしてしまったりという、音読に困
難を抱える小学部の子どもの学習に活
用しました。「わいわい文庫」の文字
のハイライト機能、音読の速さを調整
できる機能、読み上げ機能を活用しま
した。読んでいるところがわかりやす
く、音読の速さもゆっくりから始める
ことができるため、無理なく音読練習
を行うことができました。読み上げ機
能と一緒に音読をすることで、お手本
を聞きながら音読をすることも可能で
した。子どもの実態に合わせた課題を
設定できることで、「できた」という達
成感の積み重ねへとつながっていった
のではないかと感じます。

(2)活用が可能と考える場面

〈無菌室内での教材としての活用案〉

いるか分教室に在籍している子ども
たちの中には、治療のため無菌室で過
ごすことが必要なケースも多くありま
す。無菌室内は厳重な衛生管理がされ
ているため、持ち込むことができるも
のに限りがあったり、持ち込む際に消
毒をしなくてはいけなかったりといろ
いろな制限があります。

紙の場合も同様で、ページ1枚1枚を消毒液でふきとらなくてはいけないため、教科書や書籍の持ち込みはとてむずかしいです。これまでは1ページずつコピーをして、ラミネートをかけて、消毒をして持ち込み、学習を行うなどの工夫をしてきました。このような無菌室などの厳重な衛生管理が必要な場面での学習に、「わいわい文庫」が活用できると考えます。iPadにダウンロードされた書籍であれば、iPad本体を消毒するだけで、書籍のページ1枚1枚をコピーする必要も、ラミネートをかける必要も、消毒をする必要もありません。

また、iPadさえあれば、より多くの種類の書籍を読むこともできます。学習での活用をより深めていくためにも、「わいわい文庫」の蔵書に教科書に採択されているお話がより増えていくことを期待しています。

まとめ

学習での活用方法は、ほかの特別支援学校の活用と大きく異なるものではないかもしれません。たとえば、治療の関係で点滴を受けていたり、腕をギプスで固定していたりして手を使えない場合などは肢体不自由教育、理解に配慮を要するのならば知的障害教育、視力や聴力に配慮を要するのであれば、それぞれの視覚障害教育や聴覚障害教

育の観点で対応することが有効となることもあります。

それに加えて、病弱教育の場面で特徴的な活用方法としては、学校図書館の代わりとなったり補ったりする活用、衛生管理の必要な場面での活用ではないかと考えます。

いるか分教室だけでなく病院内学級や分教室では、図書館がないことも多いのが現状です。病院内の限られたスペースであるということ、ほこりなどの衛生面などの問題があるためです。「わいわい文庫」は薄いディスクやタブレット端末、ノートパソコンがあれば利用することができます。蔵書数が増えても、データの容量が増加するだけで、大きくスペースをとることもありません。利用環境や機器を整えていくことで、学校図書館の設置がむずかしい院内学級や分教室で「わいわい文庫」を活用していくことができるのではないかと考えます。

また、タブレット端末やディスク、ノートパソコンを使用するため、衛生管理がしやすいということも、病院内での教育に活用できる利点です。

また、本校での病弱教育の場面での「わいわい文庫」の活用は発展途上中です。ですが、他校も含めて今後いろいろな病弱教育の場に「わいわい文庫」が広がっていき、より多くの活用例が紹介されていくことを期待しています。